

フィンランド行政調査議会報告会

平成27年11月1日~11月8日



平成27年12月8日
杉浦秀昭、辻山秀文

1、調査項目および目的

(1)フィンランドの子育て支援「ネウボラ」

「ネウボラ」とは担当保健師が妊娠から育児まで切れ目のない支援をする制度で、本市の少子化対策における子育て支援サービスの充実に向けて、有効な施策として調査研究するため。

(2)学校教育におけるICTの活用状況

フィンランドは1990年代から学校でのICT環境整備と活用について、国を挙げて進めているICT教育の先進国である。現地の学校等を視察調査し、本市で進めている学校教育の情報化およびICTの活用の推進に活かす。

(3)公立図書館サービス事情

公立図書館サービス事情を調査視察し、現在建設中の(仮称)図書情報館におけるサービスの充実に活かす。

2、行政調査のメンバー

団長	:	神谷	学	市長
議会	:	杉浦	秀昭	議員
		辻山	秀文	議員
市職員	:	荻須	篤	行革・政策監
		兵藤	伸彦	学校教育課長



3、行政調査の行程



3、行政調査の行程ー1

【 1日目 】

11:55発 セントレア空港
15:10着 ヘルシンキ空港
17:30 ホテル着

【 2日目 】

10:00～ アールト大学
11:30～ ビレルカルリオ小学校 (ICT教育)
15:30～ 国立公園

【 3日目 】

9:00～ ヘルシンキ中央図書館
11:00～ Library 10 図書館
13:00～ ヘルシンキ大学
14:00～ フィンランド国立博物館
15:30～ シベリウス公園・テンペリアウキオ教会

3、行政調査の行程ー2

【 4日目 】

- 10:00～ 在フィンランド日本国大使館と意見交換会
- 12:30～ 児童クラブ
- 15:06発 タンペレへ移動
- 17:00着 タンペレ

【 5日目 】

- 10:00～ タンペレ市中央図書館
- 11:30～ タンペレ副市長と意見交換会
- 13:30～ ネウボラ
- 14:30～ ICTを使った総合的な学習

【 6日目 】

- 9:00～ Leinola保育園、6歳児教育
- 11:30～ タンペレ大聖堂
- 12:00～ 藤井みどり氏とのネウボラ体験意見交換
- 13:30～ タンペレ応用科学大学
- 15:00～ 倉庫を再利用した博物館

3、行政調査の行程ー3

【 7日目 】

- 9：00～ タンペレ展望台
- 10：00～ タンペレ市場
- 11：50～ ヘルシンキへ移動
- 17：15発 ヘルシンキ空港

【 8日目 】

- 10：00着 セントレア空港

4、フィンランドの概要

言語 : フィンランド語とスウェーデン語が公式言語

人口 : 547万人(2015年7月時点)

面積 : 33.8万平方キロメートル(日本よりやや小)

視察先 :

- ・ヘルシンキ市 (人口約62万人)No1 都市
- ・エスポー市 (人口約26万人)No2 都市
- ・タンペレ市 (人口約22万人)No3 都市

税率 : 所得税率:50.25% 消費税率:24%(食品は12%)

4、フィンランドの概要ー1(ヘルシンキ市)

【エスプラナーディ通りはヘルシンキの一等地】



4、フィンランドの概要ー2(ヘルシンキ市)

【ヘルシンキ駅】



【ヘルシンキ駅舎内】



【ヘルシンキ市街地】



【市街地にある公園】



5、フィンランドの教育

■教育理念

フィンランドの教育は「すべての子どもに平等な教育を」「現場への信頼」「質の高い教員の養成」という考えが根幹にある。

■国際学力比較調査(PISA)

世界の15歳児童を対象に学力(学習到達度)を3年おきに測定し2000年~2009年まで、フィンランドは常に上位にあり世界から注目されている。

※国立教育政策研究所 OECD生徒の学習到達度調査(PISA)資料より引用し2012分追記

	2000	2003	2006	2009	2012
1	フィンランド	フィンランド	韓国	上海	上海
2	カナダ	韓国	フィンランド	韓国	香港
3	ニュージーランド	カナダ	香港	フィンランド	シンガポール
4	オーストラリア	オーストラリア	カナダ	香港	日本
5	アイルランド	リヒテンシュタイン	ニュージーランド	シンガポール	韓国
6	韓国	ニュージーランド	アイルランド	カナダ	フィンランド
7	イギリス	アイルランド	オーストラリア	ニュージーランド	台湾
8	日本	スウェーデン	リヒテンシュタイン	日本	カナダ
9	スウェーデン	オランダ	ポーランド	オーストラリア	ポーランド
10	オーストリア	香港	スウェーデン	オランダ	エストニア
		14 日本	15 日本		

- 全ての子どもに義務教育の学費、教材費、給食は無料。
- 学校間格差がないので受験戦争がない。
- 保育園はすべて公立。(家庭で育児する場合は育児手当を支給)

5、ビレルカルリオ小学校（ICT教育）－1

創立：100年 生徒数：400人

教員数：38人（ICT担当教員ICTプランニング教員も雇用）

【エスポー市のビレルカルリオ小学校】



5、ビレルカルリオ小学校 (ICT教育) - 2



ミッコ マルクス レッパネン校長



- ・教育の地方分権がすすんでおり、校長にかなりの権限が委譲されている。
- ・ミッコ、レッパネン校長は32歳で校長になり現在15年目(就任からビレルカルリオ小学校)



5、ビレルカルリオ小学校 (ICT教育) - 3



- ・各教室には大型のテレビが設置され、タブレットも一人、1台使用することができる。
- ・全教室にプロジェクターも設置。



5、ビレルカルリオ小学校（ICT教育）－4

【音楽室の授業の風景】



【生徒へのメンタルサポート】



生徒へのメンタルサポートは週に3回実施され、心理学専門の学校を卒業し、実際の現場で実務経験をこなした方が数校担当している。
(5～6人/1回 程度が相談に来る)



大型テレビ画面には、英語でビートルズの歌詞が表示され、全員で合唱。
音楽室にはドラムや打楽器が小学校とは思えないほど完備されていた。

5、ビレルカルリオ小学校（ICT教育）－5



5、ビレルカルリオ小学校（ICT教育）－6



【多目的ホール】



【入口に上着を掛ける】



【多目的ホール2階スペース】



【図書室は給食室と併用】

5、ビレルカルリオ小学校 (ICT教育) - 7

【教室】



【教室】



【廊下も学習スペース】



【階段も学習スペース】



5、ビレルカルリオ小学校（ICT教育）－8

【学習スタイル】自分の落ち着く場所で自由に学習

【落ち着ける場所で学習】



【先生も生徒と同じスタイルで指導】



【机の下でも学習】



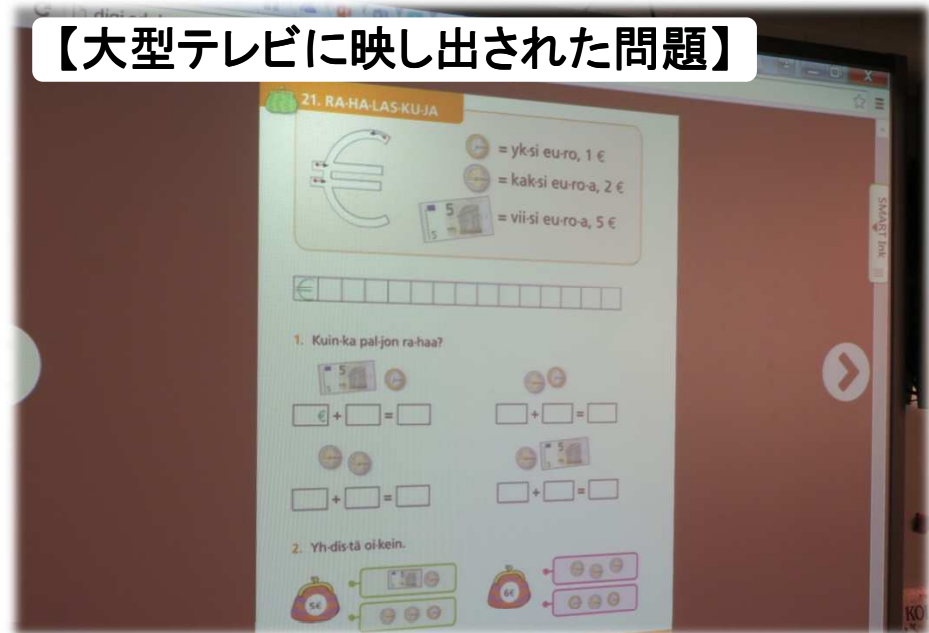
授業は形にとらわれず、好きな場所で授業を受けることができる。先生も生徒と同じように床に座り勉強を指導。

5、ビレルカルリオ小学校（ICT教育）－9

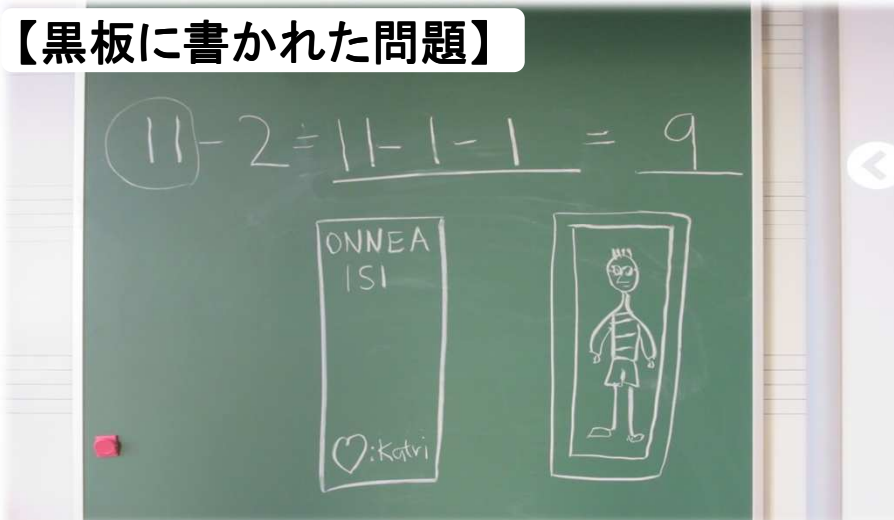
【算数の授業】



【大型テレビに映し出された問題】



【黒板に書かれた問題】



【計算におもちゃのお金を使用】



4、ビレルカルリオ小学校（ICT教育）－10

【技術科室】小学校とは思えないほど設備が充実。



【ねじ類も豊富な取り揃え】



【電動工具、ドリル等】



5、ビレルカルリオ小学校 (ICT教育) - 11

【技術科室】焼き物ができる電気窯も整っている。



ここまで、器材が揃っている小学校は見たことがありません。

5、ビレルカルリオ小学校（ICT教育）－12

【就学前教育】プレスクール（6歳児）は小学校と併設されている。



小さいころからICTを使える環境が整っている。

5、ビレルカルリオ小学校（ICT教育）－13



【教師の休憩スペース】



【キッチンも完備】



【必要な機材は先生が組立】

学校で必要な器材は、先生が空いた時間を利用して組み立てたりしている。



コストを低減し学習環境の整備

5、ビレルカルリオ小学校（ICT教育）－14

【学校給食】学校給食は無料で提供されている。



【給食はセルフサービス】



【パン、大麦、野菜、牛乳】



【食堂は学年ごとに交代制】



【生徒と同じ給食を食べました】

5、ビレルカルリオ小学校 (ICT教育) - 15

【体育館】



【運動場は小さい】



【体育館にはボルダリングが】



【体育館での授業風景】



フィンランドICT教育調査の振り返り(まとめ)

- ・フィンランドでは1990年代から学校でのICT環境整備・活用を国を挙げて推進しており、学校教育におけるICT活用状況では日本と比べかなり先行している。
- ・教員の能力が高く(教育学修士号所得)、社会的にも尊敬されており、特に校長先生への権限は今後の安城市の教育現場の参考とすべき点であると感じた。
- ・ICTにだけに特化した授業は行っておらず、授業の中でICTを組み合わせツールの1つとして使われていた。
- ・勉強は互いに教え合う風土であり、教員も勉強のできない子が同じレベルになるように補助に力を入れている。(勉強のできる子は放任的な感じ)

フィンランドICT教育調査の振り返り(提言)

■6歳児(小学校就学1年前)保育の改革検討⇒小学校、保育・幼稚園の連携

- ・フィンランドでは6歳児保育は通常の保育園ではなく、6歳児だけは小学校の敷地もしくは近くで保育をすることが義務付けられていた。この事により、小学校の雰囲気から早くから慣れ、スムーズに小学校へ入れると思います。安城市では、そこまではいきませんが月に1回とか小学校でふれあいの場を持つことなどの調査・検討をする。

■教員の休憩スペースの確保

- ・教員室は会議等を行う場となってしまうっており、教員もゆっくりと休憩しコミュニケーション、情報交換の場を確保すべき。(心にゆとりがないと生徒にも悪影響)

■校長先生の権限拡大

- ・校長先生が掲げるビジョンに対し、校長先生の裁量である程度自由に使えるお金をと権限を委譲し、ビジョン達成に向け短期間での移動は検討すべきと考える。

■大型テレビの導入(各小中学校にテスト的に1台導入)

- ・安城市内の小学校には、外国人の生徒も増加傾向にありICTを活用した授業の導入の一環として、海外とのライブ授業の実施はできないか。

■全教室にプロジェクターの設置

- ・大型スクリーンに映し出すことで情報の共有が図れ、PC等のデータをも写せるため教員が黒板に書く手間を省くことができ、その分授業時間の確保ができるのではないか。